

拡大物性委員会 議事録

日時：2024年9月17日（火）18:00～20:00

会場：北海道大学 札幌キャンパス E201

出席者数：50名

（敬称略）

司会：事務局長・青木（都立大）

書記：事務局書記・水口（都立大）

議事

1. 開会挨拶（委員長・堀田）

都立大が3年間幹事校を務め、10月から広島大に引き継ぐことが説明された。

2. 事務局から

2-1. 会員情報・会計報告（松田）

4～6月にかけて名簿更新の連絡をした。グループ数-3、会員数変化なし、物性委員-3（大きな増減はないが微減の傾向がある）。2024年度は会費徴収をしなかった。今後監査を受けた後に、次期幹事校の広島大に引き継ぐことが説明された。

2-2. 幹事会報告（堀田）

2024年8月19日に幹事会をZOOMで行ったことが報告された。幹事19名、事務局3名が参加し、幹事による各委員・幹事候補の選挙およびノミネーションの確認を行った。物性将来計画小委員会の活動の報告があった。今後の拡大物性委員会の開催に関する取り決め変更について議論をしたことが説明された。

2-3. 施設等委員の推薦について（堀田）

（以下の2-3-1および2-3-3に関して）幹事会にてノミネーションおよびWeb投票を行った。（それ以外の委員に関して）物性委員によるノミネーションを行い、8月27日～9月6日までWeb選挙を行った。

2-3-1. 東京大学物性研究所 人事選考協議会委員

幹事会にて理論系は村上氏（東工大）、実験系は勝藤氏（早稲田大）を候補に決定したことが説明され、承認された。任期は2025年4月より2年間。

2-3-2. 東京大学物性研究所 共同利用施設専門委員会委員

物性物理学分野7名と物性化学分野の2名の推薦に関して、物性物理学分野は石田氏（京

都大), 遠山氏 (東京理科大), 野原氏 (広島大), 吉田氏 (北大), 木村氏 (東大), 大串氏 (東北大), 香取氏 (農工大) が候補に決定し, 物性化学分野は細越氏 (大阪公立大), 芳賀氏 (原研) が候補に決定したことが説明され, 承認された. 任期は 2025 年 4 月より 2 年間.

2-3-3. Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APCTP) 日本委員会委員
幹事会にて柳瀬氏 (京都大) を候補に決定したことが説明され, 承認された. 任期は 2025 年 4 月より 2 年間.

2-3-4. 京都大学基礎物理学研究所 運営協議会委員

主として統計力学を研究する候補者 1 名 (補 1 名), 主たる研究分野を限定しない候補者 3 名 (補 2 名) の候補者を決定したことが説明され, 承認された. 任期は 2025 年 4 月より 2 年間.

・主として統計力学を研究する候補者

正) 佐々氏 (京大)

補) 古崎氏 (理研)

・主たる研究分野を限定しない候補者

正) 村上氏 (東工大), 小形氏 (東大), 求氏 (東大)

補) 岸根氏 (放送大), 市岡氏 (岡山大)

2-3-5. 京都大学基礎物理学研究所 共同利用運営委員会委員

主として統計力学を研究する候補者 1 名 (補 1 名), 主たる研究分野を限定しない候補者 3 名 (補 2 名) の候補者を決定したことが説明され, 承認された. 任期は 2025 年 4 月より 2 年間.

・主として統計力学を研究する候補者

正) 田崎氏 (学習院大)

補) 宮下氏 (東大)

・主たる研究分野を限定しない候補者

正) 黒木氏 (大阪大), 伏屋氏 (電通大), 遠山氏 (東京理科大)

補) 小林氏 (東大), 野村氏 (九州大)

(コメント) 2-3-5 に関して

(遠山) 小林氏は実験分野だが適切か?

(早川) 共同利用なので問題ないはず.

(堀田) 問題ないと認識しているが, 念のため, 基研事務に確認しておく.

(追記: 後日確認したところ, 問題ないとの回答であった.)

2-3-6. 物性委員会三項幹事

一項幹事および二項幹事についての説明と、第14条の三項に関する三項幹事選出を行った結果が説明され、承認された。

一項幹事は広島大の野原氏，鬼丸氏，二項幹事は都立大の堀田氏，青木氏。任期は2024年10月1日～2027年9月30日。

(次期幹事校の担当)

| | |
|---------|-------|
| 物性物員長 | 野原 実 |
| 事務局長 | 鬼丸 孝博 |
| 事務局（書記） | 志村 恭通 |
| 事務局（選挙） | 多田 靖啓 |
| 事務局（会計） | 松村 武 |

三項幹事は，小林氏（東大），遠山氏（東京理科大），永崎氏（産総研），東氏（東工大），求氏（東大），楠瀬氏（明治大），石田氏（京大），野尻氏（東北大），寺崎氏（名古屋大），和達氏（兵庫県立大），芝内氏（東大），木村氏（東大），香取氏（農工大），勝藤氏（早稲田大），古川氏（お茶大），柳瀬氏（京大），堀田氏（東大）が選出されたことが説明され，承認された。任期は2024年10月1日～2027年9月30日。

(コメント)

(野尻) ダイバーシティに関して現在ルールなどないが，女性幹事1割以上などルールを決めてもいいのではないかな？

(堀田) 事務局としてもダイバーシティを考慮すべきではないかと考えたが，今回は結果に任せるしかなかった。

(野尻・堀田) 規約などを作るのではなく，幹事会で申し合わせとして確認するのがいいのではないかな。

2-4. 今後の拡大物性委員会の開催日について（青木）

これまでは「春の学会では学会2日目に，秋の学会では学会初日に開催」としていたが，「春，秋の学会ともに学会2日目に開催」という変更をすることが事務局から提案され，承認された。

3. 報告

3-1. 学術会議からの報告 東工大 教授 腰原伸也

物理学委員会の委員長・腰原氏から学術会議の活動について説明があった。

・拠点計画申請の賛同書について，国際公共拠点の賛同書に関しては法律が変わったため早

めの申し出が必要になったが、今回は事務的にOKと学術会議が決定した。

・物理学委員会全体として素粒子から物性、プラズマまで俯瞰的に見せて行う学術会議シンポジウムを来年も行うため準備を進めている。

・学術構想について、意見を取り入れた修正について議論を開始しているが見通しは立っていない現状である。

・物性研から事務局に来ていたメールやり取りの不備があったことが報告された。

・科学委員会ジェンダー・エクイティ分科会の報告がされた。女性比率3割は必要。学術会議アクションプランにのっとなって粛々と進めていく。

・研究力委員会の26期がスタートすることが説明された(腰原氏、市川氏(素核分科会))。

(コメント)

(野尻) 拠点の支援レターについて、学術会議が個々の拠点の申請に対して良し悪しを言うのは問題ではないか？

(腰原) 過去にどのように進めてきたかを考える必要があり、過去の実績から支援を行っていいと判断するところは賛同書を出していいと考えている。

(野尻) 拠点の場合は支援レターを出すまでに時間がなく、学術会議で精査するのは難しいはず。

(腰原) 本来は全体について取り決めをしておき、その基準に従って個々の判断をすべきなのはその通り。法律変更の影響があるため、現状のようにすすめている。

3-2. 物性研究将来計画小委員会の活動報告 東京理科大 教授 遠山貴巳

2022年3月に発足し、以前のマスタープランWGの活動を参考に常設委員会として進めてきたことが説明され、主な活動内容の説明があった。2024年9月30日で任期が終わる。

「未来の学術振興構想の策定」に向けた「学術中長期研究戦略」の公募への対応として、物性員会主催で会を行った。また、「ロードマップ2023」に関する会を主催した。サポートレター希望への対応として、京大基研、東大物性研、東北大金研のサポートレターを提出した。

4. 企画：オープンサイエンス時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて 都立大 学術情報基盤センター長 堀田貴嗣

2024年7月に文科省のホームページで「オープンサイエンス時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けて」としてロードマップが示された。その背景に2023年1月に公表された「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について」がある(以下が主な項目)。

・今後の大学図書館に求められる教育・研究支援機能や新たなサービスについて(デジタル化、オープン化、研究のライフサイクルを視野に入れた支援)

・上記支援機能やサービスを実現するための、情報科学及び「場」としての大学図書館の効

果的な活用について

・上記機能やサービスの実現に求められる人材について（スキルを持った人材育成等を大学が組織体制や制度を構築する）

・大学図書館間の効果的な連携について（コンソーシアム、デジタル・ライブラリー等）

以上の多くのことを大学が検討・整備することが求められる。

・2023年5月の広島G7サミットでオープンサイエンスの推進が明記され、2024年2月に統合イノベーション戦略推進会議において「学術論文の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」が示され、2025年度新規公募分から学術論文等の即時オープンアクセスの実現を決定。2024年8月27、28日に説明会、そのための基盤整備は大学が行うことになるとの説明。「デジタル・ライブラリー」のロードマップは文科省のホームページに載っており、3つの主要項目は以下の通り。

* 支援機能・サービス

* 場：「ライブラリー・スキーマ」に基づく機能の具体化

* 人材育成

・オープンアクセス加速化事業の公募があり主要大学は採択されている。

・情報専門職の育成はとても難しく、情報専門職育成を行っている九州大総合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻に派遣する等、人材育成の準備をする必要があるが、すべてを九州大に任せるわけにはいかない。

（コメント）

（関山）ジャーナルの契約費も高騰している中で、さらにオープンアクセス化まで求めてくるのは、あとは大学で何とかしろということか？

（堀田）言い出したからには最初は拠点への支援があるはずだが、少なくとも概算予算要求には入っていない。また、オープンアクセス加速化事業の予算が継続するかもわからない。

（小林）国立大学協会などはまとまって対応しようとしたりする取り組みはあるか？

（堀田）現在のところ、そういう話は聞いていない。公立大学協会でもそのような動きは今のところはないようである。

（小林）図書館合併の話もあるので、協会として対応する必要があるのではないか。

（中山）各大学に文書館がある。公文書や歴史書など貴重資料の保存をしている。

（堀田）貴重資料のデジタル化保存など、対応を考えていく必要がある。

（網塚）各大学で図書系の人件費を占めていて、蔵書管理の業務は減らないのにデジタル化の仕事も増えるため、検討する必要があるのではないか。

（堀田）そのとおりだと思う。実際、検討部会でもその話はあった。ただ、現状は、各大学で対処してほしいということか。個人的には、もう少し国レベルで考えてほしいと思う。

5. 施設報告

・東北大金研 教授 野尻浩之

金研の共同利用は国際拠点として行っている。普通に共同利用に来ていただくプログラムだけでなく、ブリッジ型共同利用プログラムや若手海外派遣課題もあるので、ぜひ活用していただきたい。いろいろなワークショップ開催を行っており、若手の学校などを主催している。他の集会との協力も考えていきたい。33 テスラ無冷媒超伝導磁石は、2024年の3月に一部導入され、2025年度に稼働の見込みである。人事公募についてお知らせがあった。

・東大物性研 所長/教授 廣井善二

委員の推薦への謝辞が伝えられた。2024年は第4期への移行について議論を進めている。令和6年度の人事について説明があった。人事公募についてお知らせがあった。長田氏、山室氏の退職記念講演会のお知らせがあった。今後、短期研究会4件、国際ワークショップ4件を予定している。ISSP Women's Week 研究交流会。共同利用の件数はコロナ後に復活している。量子物質ナノラボの共同利用が今年から始まっている。

・SPring-8/SACLA JASRI 河村直己

2024年6~12月に中間評価がある。重要な変更点として消耗品制度の変更がある。液体窒素循環装置の試験運転開始している。BL再編・改造・高度化の予定についての説明と、SPring-8-IIに向けた開発の説明があった。SPring-8はビームタイム利用率99.6%の運転を行えている。SPring-8およびSACLAの運転は予定通りの見込みである。SPring-8-IIは2027年度から1年のシャットダウンを経て、2028年度から稼働の見込みである。SACLA/SPring-8 基盤開発プログラム(2018年度から)の紹介があった。

・京大基研 教授 早川尚男

委員の推薦への謝辞が伝えられた。次期所長は2024年9月下旬に決定する。人事異動・人事公募予定(助教・物性)について説明があった。外国人客員教授6名の滞在予定の説明があった。計算機システムに関して、国内の理論物理学者等は無料で利用可能。研究会におけるコロナ対応の方針が説明された。今後の研究会予定と国際滞在型研究会の予定が紹介された。国際モレキュール型プログラムは随時募集中。将来計画について、量子情報分野をプロモートすることが決定した。紳士協定任期の扱いについて大幅な変更がある。(教授は緩やかな運用。助教には厳密な任期を付す。)スパコンの共同利用は現状維持する。ダイバーシティに配慮する(招待講演者など)運営に関して、運営協議会の所内委員の人数を増員。所外委員の推薦ルールを一部削除する。第18回湯川記念財団・木村利栄理論物理学賞の受賞者は高橋史宜氏(東北大学・教授)に決定した。運営体制の説明があった。

・KEK 物構研およびJ-PARC MLF/CROSSからの施設報告は、資料配布のみとなります(物

性委員会ホームページに掲載予定)。

6. 会議報告

- ・ SCES シリーズ 京大理 教授 石田憲二
(時間の都合上要点のみ説明)

SCES (ICM2024) (ポローニャ) は ICMにて行われ, SCES 関連は 543 件の発表があった。次回は 2025 年 6 月にカナダのモントリオールで開催される。SCES2026 は日本・富山で開催する (2026 年 9 月 27 日~10 月 2 日)。

- ・ AAPPs-DCMP 東北大金研 教授 野尻浩之
(時間の都合上要点のみ説明)

賞関係の内容が資料にあるので, ご覧いただきたい。

◆情報提供

- ・【網塚・北大】新しい賞「かどで賞」が新設されることが報告され, 今後の予定等が説明された。
- ・【中山・九大名誉教授】物性物理学研究史資料のアーカイブ化を求める提案がされた。
(コメント)
(福山) 物性研に以前資料があったはず。それらを利用すれば比較的簡単ではないか。